

展示室 1 イギリスの風景

19 世紀前半、イギリスと日本では、ともに風景を主題とする表現が大きく花開きました。イギリスではターナー (1775-1851) とコンスタブル (1776-1837)、日本では葛飾北斎 (1760-1849) と歌川広重 (1797-1858) が活躍しました。

当時、イギリスと日本は遠く隔たり、交流はほとんどありませんでした。それでも風景画は、それぞれの土地のなかで独自の深まりをみせていきます。

ターナーは光や大気のゆらぎに目を向け、移ろいゆく自然の現象をとらえました。コンスタブルは身近な農村に静かに向き合い、穏やかな自然の息づかいを描きとめています。

北斎は大胆な構図と力強い線によって波や山のうねりを際立たせ、自然の力を示しました。広重は雨や雪、夕暮れの気配のなかに人々の暮らしを詩情豊かに表現しています。

遠く離れた地で活動した彼らの風景画は、それぞれに異なる響きをもちながらも、自然の大きさと、そのなかで生きる人間へのまなざしにおいて、深く通じ合っています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ストーンヘンジ	1829	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙	ローダーコレクション
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント・紙	ローダーコレクション
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク	1846	エッチング、ライン・エングレーヴィング・紙	ローダーコレクション
ジョン・コンスタブル	水浴びをする人たち、ハムステッド	1845 以前	メゾチント・紙	ローダーコレクション
ジョン・コンスタブル	穀物畑の農家	1844 頃	メゾチント・紙	ローダーコレクション
トマス・ガーティン	エア川沿いのカークストール修道院	1824	メゾチント	ローダーコレクション
ジョン・コンスタブル	虹、ソールズベリー大聖堂	1834-7	メゾチント・紙	ローダーコレクション
ピーター・デ・ウィント	ウィットビー		水彩・紙	
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798 頃	水彩・紙	
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス	
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス	
ジョン・クローム	ヘレスドンの眺め	1807 頃	油彩・キャンバス	
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815 頃	油彩・キャンバス	
ジョン・ヴァーレー	ポントシスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙	
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙	
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス	
サー・アルフレッド・イースト	スウェル川のほとり		油彩・キャンバス	佐藤克也氏寄贈
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46 頃	油彩・キャンバス	
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス	
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス	
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス	

展示室 2 東海道を旅する

江戸時代、京都と江戸を結ぶ主要な幹線道として発展した東海道は、人や物が行き交う宿場の様子や風光明媚な名所が広く知られました。そこには彫りや摺りといった技術が大きく進歩した木版画、錦絵とも呼ばれる浮世絵版画が大きな役割を果たしたといえるでしょう。

今回は、幕末から明治初期に伝来した西洋の技法である、油彩画や銅版画、石版画によって描かれた近代の東海道をご覧ください。古くから描かれてきた富士山を望む名所風景をはじめ、目新しい鉄道の駅舎や線路を疾走する機関車なども描き加えられた東海道。旅の手段は変わっても、旅する人々の心にはどこか共通する風情があるように感じられます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
亀井 竹二郎	石版『懐古東海道五十三驛眞景』油彩原画		油彩・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛眞景』	1892(明治25)頃	石版・紙／画帖 山鹿英助氏寄贈
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛眞景』 (徳永柳舟・町田信次郎画作、大山印刷所発行)	1891-92(明治24-25)	石版・紙／ポートフォリオ 明治版画コレクション
石田 有年	『京都名所五十景』のうち 三条大橋	1891(明治24)	銅版・紙 明治版画コレクション
楠山 秀太郎	駿州田子之浦眞景	1881(明治14)	石版・紙 丹尾安典コレクション寄贈
亀井 至一	駿州吉原ノ景	1885(明治18)	石版・手彩色・紙 丹尾安典コレクション寄贈
潮瀬 茂一	芝高輪汽車夜景		石版・手彩色・紙 丹尾安典コレクション寄贈
藪崎 芳次郎	田子之浦景	1883(明治16)	石版・手彩色・紙 長谷川宏コレクション寄贈
有山 定次郎	駿州田子ノ浦眞景	1891(明治24)	石版・手彩色・紙
藪崎 芳次郎	東都名勝図絵 新橋停車場	1893(明治26)	多色石版・紙 長谷川宏コレクション寄贈
浦野 銀次郎	東京名所 帝都日本橋ヨリ三越呉服店ヲ望ム	1931(昭和6)	多色石版・紙 長谷川宏コレクション寄贈

展示室3 郷土ゆかりの彫刻

大正から戦前にかけて活躍した木彫家・三木宗策を起点として、郡山には優れた彫刻家が育ち、その系譜がかたちづくられました。三木の門下として研鑽を積んだ佐藤静司、本田晶彦らは、伝統木彫の確かな技と精神を受け継ぎ、それを礎として、さらに自由で新鮮な表現へと展開していきます。

また、三坂耿一郎は、具象と抽象のあいだを往還する塑像表現で、彫刻の新たな可能性を切り拓きました。現代においては、郡山市在住の黒沼令が木彫による人物表現に取り組み、部材を寄せて組み上げる技法を用いながら、人間の内面を静かに映し出す造形を追求しています。

郷土に根ざした彫刻の歩みと、その豊かな広がりをご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
佐藤 静司	獺	1936(昭和11)	木彫 管理換え
佐藤 静司	風紋	1976(昭和51)	木彫
佐藤 静司	求道	1995(平成7)	木彫 佐藤静司氏寄贈
本田 晶彦	トルソ	1967(昭和42)	木彫 本田悦久氏寄贈
三木 宗策	大葉子	1942(昭和17)	木彫 萩原巖氏寄贈
三木 宗策	威容抱慈(坂上田村麻呂像)	1924(大正13)	木彫 管理換え
三木 宗策	傷つきたる鳥人	1941(昭和16)	木彫 三木康生氏寄贈
黒沼 令	刹那	2019(令和元)	木彫
三坂 耿一郎	まとう	1967(昭和42)	ブロンズ
三坂 耿一郎	女童(めわらべ)	1974(昭和49)	ブロンズ

展示室4 - ① 線の美

「線を引かない日は1日たりともない」と古代ギリシアの画家アペレスが述べたように、線は絵画制作の根幹をなし、絵は線を引くことによって始まるといっても過言ではないでしょう。線描はかつて本画のための習作や下絵といった制作の一つの手段で、デッサンとしての役割を担っていました。対象の形態を輪郭づけるためのデッサンは、あらゆるものの存在を境界づけ、現実には存在しない輪郭線が絵画の主要構成となります。しかし時代が下ってゆくと、線が持つ造形性が重視されるようになりました。チョーク、鉛筆、ペンなどで引かれた線は、細く尖っていたり、太く柔らかであったりと、多様な表情と表現を備え、自律した表現として展開してゆくのです。ここではイギリス美術の作品を通じて、美しい線描の世界をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ジョン・フラクスマン	ホメロス『オデュッセイア』		ラインエンゲレーヴィング・紙／ポートフォリオ ローダーコレクション
アーサー・ラッカム	J.M. バリー著『ケンジントン公園のピーターパン』	1908	写真製版 初版
オーブリー・ピアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカナーン (オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵)	1893	ラインブロック・紙 オーブリー・ピアズリー 風刺画
	ラインブロック・紙 『イエロー・ブック』第4巻	1895	雑誌(布装)

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
オーブリー・ピアズリー	『イエロー・ブック』第4巻表紙デザイン	1894	ラインブロック・紙	
オーブリー・ピアズリー	ウィフレッド・エメリーの肖像(『イエロー・ブック』第4巻挿絵)	1895	ラインブロック・紙	
ジェームズ・マックビー	ザーンストレイク	1924	エッチング・紙	ローダーコレクション
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ピリングズゲイト	1859	エッチング、ドライポイント・紙	ローダーコレクション
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	グリニッジ公園	1859	エッチング・紙	ローダーコレクション
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ヴィーナス	1859	エッチング・紙	ローダーコレクション
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	バルコニー、アムステルダム	1889	エッチング・紙	ローダーコレクション
エリック・ギル	磔刑	1931	木口木版	ローダーコレクション
エリック・ギル	降架	1931	木口木版	ローダーコレクション
エリック・ギル	エヴァ	1926	木口木版	ローダーコレクション
ロバート・ギピングス	L. ボウイス『生命の栄光』ブルーフ集	1934	木口木版	ローダーコレクション
ガートルード・ハーミーズ	トビトと魚		木口木版	ローダーコレクション
ジョン・ナッシュ	ユディトとホロフェルネス		木口木版	ローダーコレクション
デイヴィッド・ジョーンズ	跪く動物たち	1927-28	ドライポイント	ローダーコレクション
デイヴィッド・ジョーンズ	『老水夫のうた』のための10点の挿絵集	1929	エングレーヴィング/ポートフォリオ	ローダーコレクション
エドワード・バラ	酒場		木版・紙	ローダーコレクション
ポール・ナッシュ	花束		木版・紙	ローダーコレクション
サー・エドワード・コリー・パーソンズ	キリストの昇天	1875	チョーク、墨・紙	

展示室4-② 佐藤潤四郎のガラス

佐藤潤四郎(1907 - 1988)は、郡山市出身のガラス工芸家です。はじめは画家を志していましたが、東京美術学校(現・東京藝術大学)では、金工科鍛金部で金工を学びます。卒業後の1934(昭和9)年に各務鑛三と出会い、2年後には各務クリスタル製作所に入社、ガラスの道へと進みます。1972(昭和47)年に退社するまで、長きにわたりデザイナーとして活躍しました。

触れると冷たく、硬いクリスタルガラスですが、潤四郎が手がけるガラスにはどこか温かみがあり、柔らかな印象を受けます。ここでは、さまざまな技法でつくられた、さまざまなかたちのガラスをご紹介します。佐藤潤四郎のガラス世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤 潤四郎	スタンドグラス・窯		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	[ガラスの神様シリーズ]ガラスの神様になった私		墨・紙	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	花器(カットグラス)	1986(昭和61)	ガラス/型吹・エッチング、カット	
佐藤 潤四郎	花器(雲母入り)		ガラス/宙吹・雲母封入	
佐藤 潤四郎	花器(カレット入り)		ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器(顔)	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器(グリーン)	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤 潤四郎	花器・アダムとイヴ		ガラス/宙吹・サンドブラスト	
佐藤 潤四郎	花器・ちょっと考えて(樹)		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤 潤四郎	花器	1980年代	ガラス/宙吹、プランツ	
佐藤 潤四郎	花器	1986(昭和61)頃	ガラス/宙吹	佐藤昌保氏寄贈
佐藤 潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	クリスタル花器		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	舍利器(カレット入り)		ガラス/宙吹・カレット融着	
佐藤 潤四郎	奈良・薬師寺西塔舍利器(試作)	1978(昭和53)	ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤 潤四郎	オブジェ・仏足跡ロータス	1984(昭和59)	ガラス/エッチング、サンドブラスト	
佐藤 潤四郎	魚(オレンジ)	1973-76(昭和48-51)頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤 潤四郎	魚(ブルー)	1973-76(昭和48-51)頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》初号モデル	1962(昭和37)頃	ガラス/宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤 潤四郎	タンブラー(20点)		ガラス/型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	タンブラー(スモークグラス)(2点組)		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	タンブラー(6点組)	1980年代	ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤昌保氏寄贈
佐藤 潤四郎	大杯・ワインを造る		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤 潤四郎	グリーン大杯・ガラスの神様	1980 年代	ガラス／宙吹・プランツ、グラヴェール	
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス／宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤 潤四郎	ルーマー杯 (グリーン)		ガラス／宙吹・プランツ、雲母封入	石川和子氏寄贈
佐藤 潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス／宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	葡萄文ワイングラス		ガラス／宙吹・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	リュトン (ガラスの神様)	1984(昭和 59) 頃	ガラス／宙吹・グラヴェール	福永香氏寄贈
佐藤 潤四郎	シュガーポット		ガラス／型吹・金属	
佐藤 潤四郎	アイスクリーム皿		ガラス／宙吹	大方竜子氏寄贈
佐藤 潤四郎	灰皿		ガラス／型押し	
佐藤 潤四郎	水指 (カットグラス)	1986(昭和 61)	ガラス／型吹・カット	
佐藤 潤四郎	水指 (魚)	1986(昭和 61)	ガラス／型吹	
佐藤 潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和 16) 頃	ガラス／宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤 潤四郎	花器・馬車に乗るガラスの神様	1973-76(昭和 48-51 頃)	ガラス／宙吹・サンドブラスト	(株)ノリタケクリスタル寄贈
佐藤 潤四郎	硝子の女神	1982(昭和 57)	ガラスレリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤 潤四郎	赤いガラスの神様		ガラスレリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤 潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82(昭和 55-57) 頃	ガラス／宙吹・プランツ	
佐藤 潤四郎	オブジェ・これ以上芽の出ない世界	1980-82(昭和 55-57) 頃	ガラス／宙吹	

ロビー展示 彫刻・他

	作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1 階	アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
	笠置 季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント	
● 2 階展示ロビー	舟越 保武	少女	1956(昭和 31)	砂岩	
	佐藤 静司	子供頭部	1955(昭和 30)	木彫	佐藤静司氏寄贈
	木内 克	女の顔	1965(昭和 40)	石膏、顔料	和田敏文氏寄贈
	山本 正道	帽子を被る男の肖像	1970-4(昭和 45-9)	ブロンズ	
	佐藤 静司	遙か	1989(平成元)	ブロンズ	宇野洋子氏寄贈
● 前庭	バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	